

ザ・プロフェッショナル The Professional file.04

新奈良県総合医療センターの新築工事が
2018年春のオープンを目指し進行中だ。
女性のプロフェッショナルも多く働くこの現場で、
女性ならではの視点を活かし、いきいきと活躍する
「けんせつ小町※」に密着した。

※けんせつ小町:建設業の現場で働く女性の愛称。



電気担当者にテキパキと指示を出す伊庭さん。

チーム「ならら小町」を結成。



チーム「ならら小町」

左から、根本しのぶさん(工務・積算担当)、岩井涼子さん(施工図の修正担当)、亀山佑美さん(施工図の修正担当)、喜多万奈巳さん(工務・積算担当)、リーダーの伊庭花子さん(電気・機械設備の施工管理担当)、並里麻依さん(消火設備の施工管理担当)、味若朋さん(事務担当)、梶川千尋さん(消火設備の施工管理担当)
(黒文字:奥村・村本・山上特定建設工事共同企業体 所属 茶文字:川崎設備工業 所属)

女性が活躍できる、建設業の魅力を伝えたい。

建設現場で働く女性でチームを結成

今、建設現場ではあらゆる職種において、女性が増えてきている。

作業員だけでも900人近くが携わる大規模な建設現場で、男性作業員に指示を出す凛々しい女性の姿がある。電気・機械設備工事の施工管理を行う伊庭花子さん。「大学で建築を学び、女性でも建設現場で働けることを知って、この世界に飛び込みました」という彼女。2016年6月には伊庭さんがリーダーとなつて、新奈良県総合医療センター工事所で働く女性8名を中心としたチーム『ならら小町』を結成した。

「学生の時にアルバイトをしていた建設会社で目にした、作業服で颯爽と現場に出ていく女性の姿に憧れ、アパレルから建設に進路変更した」という梶川千尋さんと、「消防官を目指していたけれど叶わず、消防の知識が活かせる今の仕事を選んだ」という並里麻依さんは、この建設現場における消火設備工事の施工管理や検査の立会いなど、幅広い業務を2人で担当している。

『ならら小町』は建設現場で女性がいきいきと働いている姿をアピールしようと、積極的に表舞台に出て活動している。



消火設備の点検は、建物の安全に関わるだけに真剣そのもの。



内装が図面どおりになっているかどうか、現場に出向いて確認。

女性ならではのきめ細かい仕事が好評

周りの男性は彼女たちの仕事ぶりをどう見ているのだろうか。取引業者からは、「女性がいるだけで場がなごみ、話がスムーズに進む」と、評判は上々。工務補助を行う喜多万奈巳さんは、「病室の壁紙を提案する際に、イメージしやすいよう図面に実物のサンプルを貼ったプレゼンボードをつくりました」と語る。こうした女性ならではの丁寧できめ細かい作業にも評価の声があがっている。「洗面台の高さや色など、内装設備に女性目線の意見を求められることもあります。医療施設は看護師さんをはじめ女性の利用者も多いと思うので、私たちの意見が役立てば嬉しい」と伊庭さん。

現場で作業をしていると、すれ違う男性が彼女たちに気さくに声をかけていく光景も印象的だ。「わからないことを教えてくれたり、折に触れて気遣ってもらえることも多い」という。工事中の建物の外壁には『女性の未来にエール』と書かれた横断幕が掲げられ、建設業界全体としても女性を応援する気運は高まっている。



(上)工事現場に掲げられた女性の活躍を応援する横断幕。
(下)仕事内容はそれぞれ異なるが、チームで集まれば和気あいあいとした雰囲気。女性同士、困ったことも相談しやすい関係ができている。

働きやすい、魅力ある職場づくりを目指して

男性中心の建設現場で女性が働くことには、もちろん苦勞もある。『ならら小町』では、懇親会でチームの結束を高めるとともに、現場で働く女性の作業員からも意見を聞いて悩みや問題点の解決に努めている。「トイレに行きにくい」という声があがったことから、上司に掛け合って男性用と入口を別にした女性用トイレをつくったり、女性専用の更衣室兼休憩室も設置した。施工図の修正に携わる亀山佑美さん、岩井涼子さんは、「この現場は女性が多く結束力が強いので、安心してのびのびと仕事ができる」と明るい表情を見せる。家庭を持つ女性にとっても働きやすい職場のようだ。「子供の学校行事の日なども休み易いので助かります」とは、事務の味若朋さん。工事書類を作成する根本しのぶさんは、「9〜15時の時短勤務で働いています。恵まれた環境で仕事が楽しい」と目を輝かせる。

「私たちの活動を通して建設業界に魅力を感じてもらえたら」と、『ならら小町』は地域のお祭りで建設現場の仕事が体験できるブースを出展したり、女性が働く姿を見てもらおうと、現場見学会にも積極的に参加している。そのヘルメットの下にある笑顔には、仕事の楽しさがあふれ出ていた。



(左)トイレは壁をピンクにして男性用との区別を明確に。女性だけが知る暗証番号で鍵の開け閉めを行う。
(右)女性専用の更衣室兼休憩室には姿見鏡も設置されている。着替えはもちろん、荷物置き場としても安心。



建設現場の仕事を事務所でサポート。
「建設のプロとして働く姿は皆さんカッコいい!」と語る。



配管のサイズや溶接の仕上がりをミリ単位でチェック。
女性ならではのきめ細かさに定評あり。

2017年8月に開かれた「けんせつ小町活躍現場見学会」には、40名近い人が参加した。



普段なかなか目にするここのない建設現場を、興味津々の様子で見学する小学生たち。

生まれ変わる 「新奈良県総合医療センター」

現在、奈良市平松にある奈良県総合医療センターは、2018年春のオープンを目指し、新病院を建設中。病室は全室、南側に配置され、待合や玄関ホール、治療室にも自然光が差し込む設計になっている。完成すれば、救急医療、ガン医療、周産期医療の充実とともに、医療従事者の教育・研修の場としての機能も果たすこととなる。

完成予想図(病棟側)。緑豊かな立地を活かした、心地よい療養環境。



2018年春の開院を目指し、着々と工事が進行中。写真は正玄関側。

【建物概要】

所在地：奈良県奈良市七条西町2丁目地内
構造：鉄骨造及び鉄筋鉄骨コンクリート造(免震構造)
階数：地下1階、地上7階
高さ：24.95m
敷地面積：約79,800㎡
建築面積：約14,000㎡
延床面積：約67,000㎡
病床数：540床
施工者：奥村・村本・山上特定建設工事共同企業体



(左) 建物は年内に完成予定。奈良県全域の医療を支える施設として、その姿が形になりつつある。
(右) 全国でも例の少ない全室南向きの病室。自然光と眺望を重視して設計されている。